

## サマリー

### 中国における石炭輸出入動向とアジア市場への影響

戦略・産業ユニット 石炭グループ

研究主幹

佐川 篤男

戦略・産業ユニット 石炭グループ

主任研究員

小泉 光市

中国は 2001 年に 9,000 万トンを上回る石炭を輸出し、アジア石炭市場、特に東アジア地域への石炭供給国として大きな役割を果たしてきた。しかし、中国国内の石炭消費の急増により国内需給が逼迫し、2004 年以降石炭輸出量は毎年減少し、一方で石炭輸入量は増加した。この中国の輸出入の動きは、アジア石炭市場の石炭需給に少なからず影響を与え、価格高騰の要因の一つになった。

2008 年に入り昨年まで続いた輸出減、輸入増の傾向が止まっているが、国内の消費増加の勢いは継続しており、中国の石炭消費は 2008 年以降も増加する。このため、石炭輸出は減少もしくは横ばいで推移し、輸入量は基本的に増加することが見込まれ、アジア市場の石炭価格を押し上げる要因の一つになると考えられる。しかし、現在中国政府が進めている生産体制整備が順調に進捗し、需要に見合った安定供給が為されるようになれば、石炭輸出は、中国東南部沿海地域などでの輸入の増加に伴い輸出量が増加する（輸入炭で国内需要が満たされ、余剰分が輸出に回る）ことが期待され、価格の沈静化につながる可能性がある。

一方で、中国の石炭輸出入量は、アジア市場価格と中国国内価格の動きにより増減している。すなわち、アジア市場価格が中国国内価格より高くなれば輸出増、輸入減の傾向が強くなり、逆の場合は輸出減、輸入増となる。今後もこの傾向は続き、価格動向により変動する出入量の増減が、これまでと同様にアジア市場に影響を与えることになると考えられる。

本報告では、この中国の 2007 年までの石炭輸出入の状況、中国がアジア市場に及ぼした影響について整理し、今後の中国の石炭輸出入とアジア市場に与える影響を検討した。

お問い合わせ: [report@tky.ieej.or.jp](mailto:report@tky.ieej.or.jp)